

スリップが要因となる死亡事故の特徴 (平成30年度から過去5年 死亡事故62件67人)

【まとめ】

- 11～12月は降雪(降雨)後の数日間にわたり、**湿潤と凍結を繰り返したり、乾燥路面の中に部分凍結が発生**するため、運転手は急な路面変化に対応できず、スリップ事故を発生させます。
- 発生場所はカーブより、**平坦な直線道路が多く、正面衝突が約6割**を占めています。
- 正面衝突は、**普通車**が第1当事者となる事故が多く、普通車が**大型車**や**中型車**と衝突する事故が**約7割**を占めています。
- 事故直前の速度が速い場合は死亡事故になるケースが多く、**事故直前の速度が40km/hを越える**と**死亡事故の割合が高くなります**。

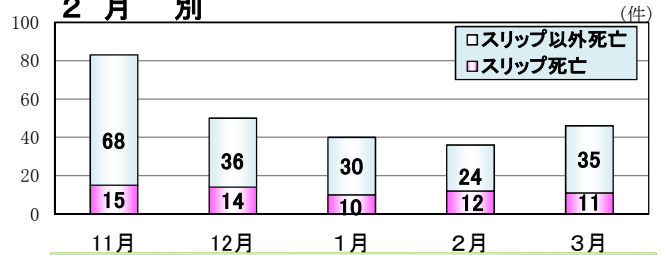
1 年度別推移

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	合計	
全人身事故件数(A)	4,919	5,094	5,230	4,651	4,269	24,163	
うち死亡事故件数(B)	49	50	58	54	44	255	
うちスリップ事故	人身事故件数(a)	811	949	1,062	909	674	4,405
	a/A	16.5%	18.6%	20.3%	19.5%	15.8%	18.2%
	死亡事故件数(b)	13	8	23	11	7	62
	b/B	26.5%	16.0%	39.7%	20.4%	15.9%	24.3%
	b/a	1.6%	0.8%	2.2%	1.2%	1.0%	1.4%
死者数	15	10	24	11	7	67	

○ 死亡事故は、各年度によりバラツキが多い

各年度を比較すると、最多は平成28年度(23件)で、最少は平成30年度(7件)であった。
最多年度と最少年度では約3.3倍となっている。

2 月別

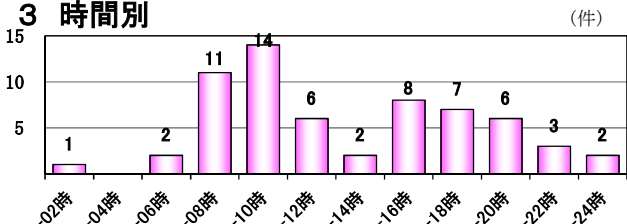


○ 11月が最も多く、11月と12月で約5割を占める

11月・12月の最低・最高気温は、融水が凍結する0度を挟み変化、夜間はブラックアイスバーン又は凍結、昼間は凍結路面に融水膜が発生する危険な路面状態です。

特に降雪(降雨)後の数日間は、湿潤と凍結を繰り返し、部分凍結を発生させるため注意が必要です。

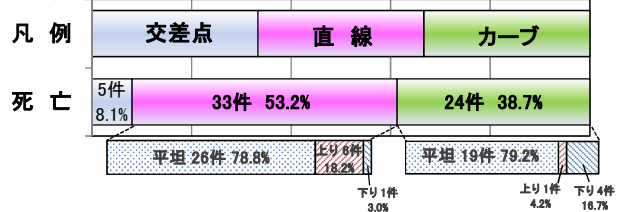
3 時間別



○ 6時から10時までの時間帯で発生が特に多い

内訳では、8～10時の時間帯が14件で最も多く、次いで6～8時の時間帯が11件となっている。
午前は6～10時、午後は14～20時が多い時間帯となる。

4 道路形態別



○ 死亡事故は直線(33件52.4%)が多い

発生場所はカーブより、**直線道路**で多く発生している。
直線では、カーブのように速度を抑えていない場合が多いことから、**事故直前の速度が速い**ため、衝突時に体を与える影響が大きいととらえられる。

5 事故類型と第1当事車両別

	人対車両	自転車対車両	正面衝突	追突	出会い頭	車両単独	その他	合計
発生件数	1		37	1		20	3	62

	正面衝突 (件数)	第1当事車両		合計
		大型車両	普通車両	
第2当事車両	大型車両		19	19
	中型車両	1	5	6
	普通車両		11	11
	大特その他	1		1
合計		2	35	37

○ 事故類型は、正面衝突が37件でスリップが起因する死亡事故の59.7%を占めている。

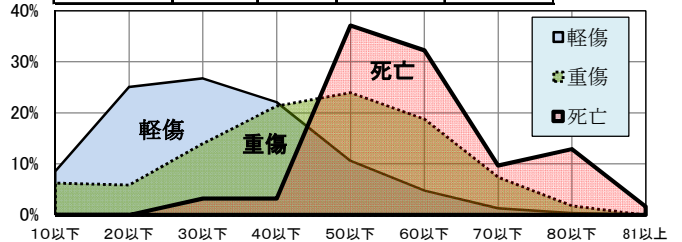
○ 正面衝突の第1当事者の94.6%(35件)は「普通車」で、第1当普通車に対する第2当事者の68.6%(24件)は「大型車・中型車」となっている。

「普通車」の運転手は、「大型車・中型車」とすれ違う場合、対向車両に「恐怖心」(心理的圧迫)等を抱き、不用意な操作(ハンドル・ブレーキ操作)が要因となっていると考えられる。

※「8恐怖心、驚愕によるスリップ事故のメカニズム」参照

6 事故前の第1当事者の速度と事故内容

	死亡	重傷	軽傷	合計
発生件数	62	271	4,072	4,405



○ 死亡事故は全件数の1.4%となっている。

発生件数は、「軽傷」が4,072件(92.4%)、「重傷」が271件(6.2%)、「死亡」が62件(1.4%)となっている。

○ 死亡事故になるかどうかは、事故直前の速度による。

事故直前の速度が速くなるにつれて、人身損傷程度が大きくなり、事故直前の速度が40km/hを超えると死亡事故の割合が高くなる。

7 スリップによる死亡事故の発生危険箇所

平坦な直線 20件20人



橋梁上の一部凍結 3件3人



橋梁の手前は乾燥しているが、橋梁上のみ凍結。

直線 33件34人

死亡事故の最も多い道路形状は、平坦な直線道路で、うち「普通車×大型・中型車」の正面衝突が多くなっている。

トンネル内の一部凍結 4件5人



トンネルの手前は乾燥しているが、トンネル内の出入口付近が一部凍結。

平坦なカーブ 19件19人

樹林による日陰のため、一部凍結



樹林による日陰のため、一部凍結路面が発生。日陰部分手前は乾燥路面であるが、数十メートルにわたり凍結している場合が多い。

カーブ 24件27人

山間部の凍結



山間部のカーブでの全面凍結。

8 恐怖心、驚愕によるスリップ事故のメカニズム

スリップによる死亡事故は直線道路で最も多く発生し、「普通車×大型・中型車」の正面衝突が最も多くなっており、対向車線にはみ出しているのは、ほとんどが「普通車」です。

これは、大型車とすれ違う際に、普通車の運転手は「恐怖心(心理的な圧迫感)」から、不用意なハンドル・ブレーキ操作によりスリップを発生させる等、車両の制御ができなくなり、対向車にはみ出した結果、正面衝突となっていると思われます。

